



ハササゲ (マメ科)

本州から九州の山地の道端などに生えるつる性の多年草。つるは針金状で草や木に巻き付いて上り、長さは3m以上に達する。葉は3出複葉で互生する。薄く、表面は無毛、裏面は緑白色でまばらに伏毛がある。夏から秋にかけ葉腋から花柄を出し、長さ1.5〜2cmの淡黄色の蝶形花をたくさん付ける。秋、豆果は紫色に熟し、3〜5個の種は黒紫色で白粉をかぶる。名前の由来は、食用のササゲに似て、野に生えることから。別名キツネササゲ。

ドクターTのひとりごと  
〜その106〜

情報リテラシーの重要性

さまざまな医療情報はテレビやインターネットからも入手できるが、中には学術的には不正確な情報や意図的に発信された偽情報が紛れ込んでいる場合がある。国民の関心が高い新型コロナウイルス感染症に関する情報、ワクチンの効果や副反応についての情報には特に注意を要する。まさに「膨大な情報の中から必要な情報を抜き出し吟味し正しく活用する力」すなわち「情報リテラシー」が求められる。

健康維持に必要な医療情報を間違えて理解し、適切な処置を受ける機会を逃したり、防ぐことができた病気にかかることは問題である。医師であっても専門分野でない人の意見や、専門家であっても同じ分野の専門家が賛同できない特異な意見を述べる人もいる。誤情報の拡散の連鎖が起こると短時間に多くの人間に間違った情報が広がる。

こういった現象は社会に不安が広がっているときに起こりやすい。正確な情報を見抜くには、まずは一人ひとりが初めて聞く情報をつのみにせず、安易に拡散させないことである。初めて聞く情報の真偽は、行政機関などの公的機関や学会など複数の専門家による科学的な根拠が示された内容であるかを確認することが重要となる。



？ 広報アンケート  
あなたの意見や感想を聞かせよう

5名

乾農園の大きな大きな「原木しいたけ丸」(1パック)

南山城村から移住してきたしいたけ農家が手掛ける大きな原木しいたけ。温度、湿度、風通しなどの管理が難しい原木しいたけは、春にミズナラやコナラ、クヌギの木に菌を植え付け、夏の間に菌を行きわたらせ、秋に刺激を与えると顔を出します。経験とデータを頼りに、水に漬けたり原木を金づちでたたいたり、手間をかけて大きく育った原木しいたけは、原木ならではの奥深い味、豊かな香りが特徴です。

今月のプレゼント



【提供】原木椎茸乾農園  
(☎090-8336-6782)

- 【広報まいつるアンケート】
- 「広報まいつる」の内容の満足度は次のうちどれですか？  
①大変良い ②良い  
③不満 ④大変不満
  - 広報まいつる11月号で興味・関心を持った記事は何ですか？
  - 財政事情の特集を読んだ感想を教えてください。
- 【応募方法】  
「はがき」〒625-8555(住所不詳) 舞鶴市役所広報広聴課あて「か」市ホームページ応募フォーム(左コードからアクセス可)で①アンケートの回答②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙や市政への「意見などを記入し、11月25日(日)消印有効までに広報広聴課へ。」

※応募は一人一通。当選者は全てのアンケートに回答いただいた人の中から抽選で決定。発表は発送をもって代えさせていただきます。  
※いただいた感想、「意見は、匿名で広報紙に掲載することがあります。」



「こみブクロウ」の「こみ講座」



身近なリユースの取り組み

皆さんはリユースを行っていますか。リユースとは、不要になったものをこみせず、繰り返し使うことです。以前はフリーマーケットやバザーで、不要なものを必要な人に販売するという取り組みが主なものでしたが、近年ではスマートフォンでさまざまなフリマアプリが登場し、リユースの取り組みがより多様で身近なものになっています。自分には不要になったものも、必要と

している誰かがいるかもしれないという意識を持ち、簡単に処分するのではなく自分ができるリユースの方法を探してみよう。

また、物を修理して長く使うことや、着なくなった服を違うものに作り替えるリメイクなどもリユースの取り組みです。リサイクルプラザでは「こみ」として出された家具などを修理し、再生品として展示・提供する取り組みや、子ども服を募集して必要な人に提供する取り組みも行っています。ぜひ活用ください。

《生活環境課》

小児医療の虎の巻  
監修 舞鶴医療センター  
副院長 小松博史先生



赤ちゃんの鼻つまり

寒い時期に悩ませるのが赤ちゃんの鼻つまり。赤ちゃんは大部分鼻で呼吸をしているので鼻がつまると大変しんどいのです。これがなかなか厄介で「これ」という良い解決法がありません。

薬はほとんど無駄ですが、ひとつの対処方法として、お風呂に入れるのも良いでしょう。湯気が鼻の粘膜を湿らせ、体が温まることで粘膜の腫れも引き、しぶん桑になります。

《地域医療課》

かかりつけ医(※)を持ちましょう

子どもの様子は、幼い時ほど個人差が大きく、また、成長・発達とともに変化していきます。口頭から診療や健康管理など気軽に相談や指導を受けられる身近なかかりつけ医を持ちましょう。

※子どもの病歴や健康状態を把握し、何でも相談でき、じっくり診療してもらえる身近な医者のことです。

SDGs 高校生が考える 第4回

8月号から連載コーナーでSDGs(持続可能な開発目標)を市内高校・高専の生徒・学生が考えています。第4回は東舞鶴高校。1・2年生での総合的な探究の時間を「マイガクII」と名付け、SDGsをテーマとした探究活動の学習に取り組んでいます。昨年度の2年生「マイガクII」では、市のさまざまな課題を4つの視点から捉えて探究し、その課題の解決を考察しました。

◆海洋ごみ問題  
現在の海洋プラスチックごみの現状を分析し、市役所の人から、発生の抑制、意図的・非意図的な流出の抑制、陸上や河川の美化活動、海洋ごみの回収などの対策が大切との話を聞き、これらを啓発するため、楽しくごみを「ごみ箱」に捨てられる「捨てさせない看板」、心理的效果を考えた「捨てさせない看板」、ごみを拾うほどキャラクターが変化するアプリと連動した「拾わせる看板」を、芸術の視点を取り込んで製作しました。

◆少子化問題  
現状を分析し、まず市で結婚する人を増やすことを考え、市役所前からターゲットする舞鶴湾クルージングツアーの企画を考えました。

市の「SDGs 未来都市計画」を取り上げて、明確な答えがない問題に取り組むことで、予測不可能なことに向かい乗り越える力や課題に対して解決に向けたアクションを起こす力、創造力、協働活動をやりきる力を養うことができました。また、この活動は、8月に開催されたSDGs 未来都市・モデル事業選定都市「舞鶴」担い手連携フォーラムでも発表しました。



フォーラムにも参加しました